

今村清隆（訳者代表）

症例で学ぶ外科医の考えかた 外科診療の基本がわかる 30 症例

本多通孝

福島医大教授・低侵襲腫瘍制御学

最近、外科の世界にもオンライン教育が導入されつつあるが、コロナ禍がやってくる遙か以前から、医学生・研修医向けに Web 上で勉強会を開催していた先駆者がいた。本書の翻訳を企画した今村清隆先生である。それもただの勉強会ではない。米国のテキストや専門医試験問題集を利用して全国のやる気ある医学生が Web 参加しているというではないか。「自分が医学生のときに、そんな勉強会があったら……」とほぞをかむ先見性と企画力である。その今村先生がオンライン勉強会で使用した米国の有名なテキスト『Surgery: A Case Based Clinical Review』（第2版, Springer）の訳書が、このたびついに発刊された。

日本にいて同じ病院や医局で長く仕事をしていると、知らず知らずのうちにローカルルールにとらわれてしまい、ともすれば特定の疾患を自

分の型に当てはめて治療する作業に満足しがちである。しかし疾患の本質的な理解が浅いと、他の文化圏の病院に異動したときに大いに苦労することとなる。昔から、外科診療では「外科医が絶対に外してはいけない疾患」があり、そうした外科医の幹となる症例をしっかりと伝えることこそが、国内だけでなく国際的に活躍する外科医を教育する第一歩になろう。本書の原書は、もともと米国の外科教育を目的に執筆されたものであるが、わが国の医学生、初期研修医、専攻医にとっても必読の内容である。読者それぞれの段階でこの 30 症例から学び取れることは違ってくると思うが、早めに本書を手にして熟読していただければ、将来のキャリアで必ず役立つ知識が得られることだろう。まずは今村先生の愛情がこもった本書のページをめぐってみたい。情報量の

多さに圧倒されることなかれ、世界で戦うにはこれくらいがちょうどいいのだ！

最後に、本書には今村先生が長年かけて培ってきた教育のエッセンスが贅沢に詰め込まれている。「外してはならない典型例」を軸に、最新文献とトピックスを織り交ぜて解説されており、各症例に付いている QR コードを読み込むとネイティブの英語で症例の読み上げが聞けるといふ芸の細かさである。こうした書籍の作りこみ方も含めて、今村清隆先生の「新しい時代を切り開く力」も学び取っていただけたらと思う。

● B5/頁 240/2022 年 02 月

定価：6,600 円

（本体 6,000 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-04784-5]

医学書院 刊